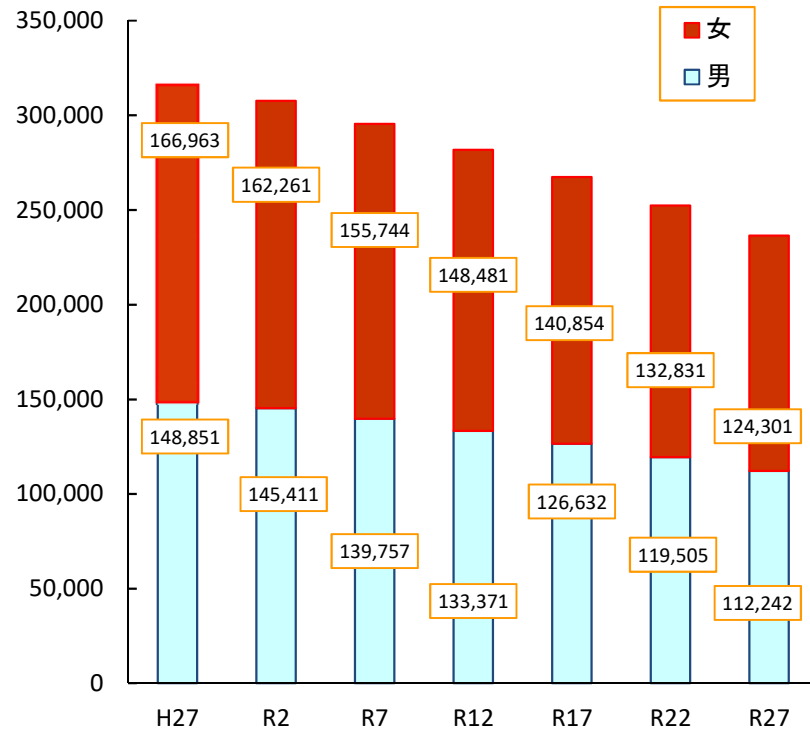


本市のこども・若者・子育て当事者を取り巻く現状

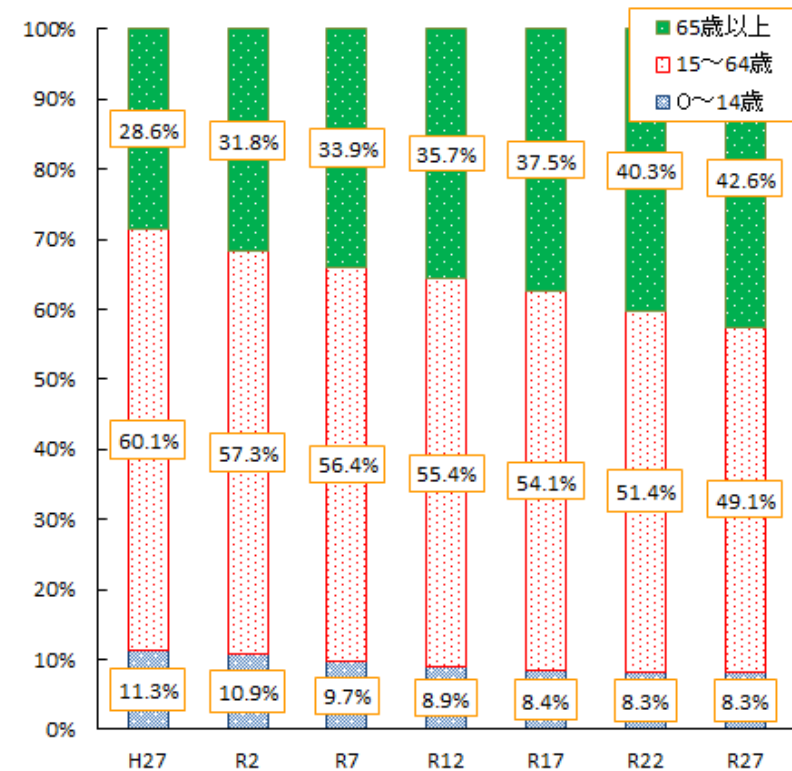
1 総人口と将来推計人口

令和2年国勢調査の結果によると、本市の令和2（2020）年の総人口は、307,672人であり、平成27（2015）年の315,814人から8,142人減少しています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和12（2030）年の総人口は281,852人に減少し、年少人口（0～14歳）の比率は、令和2（2020）年の10.9%から8.9%に低下することが見込まれており、人口減少および少子化が一層進む見込みとなっています。

◆総人口の推移（秋田市）



◆年齢3区分別割合の推移（秋田市）

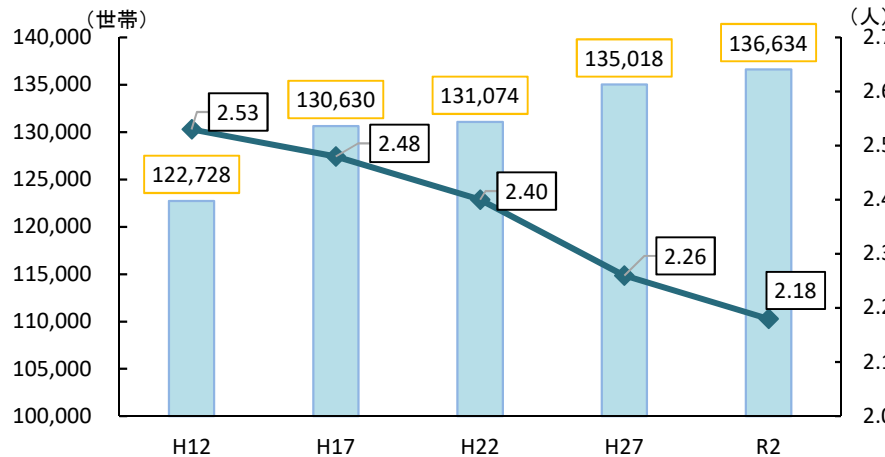


【資料】 国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」より作成

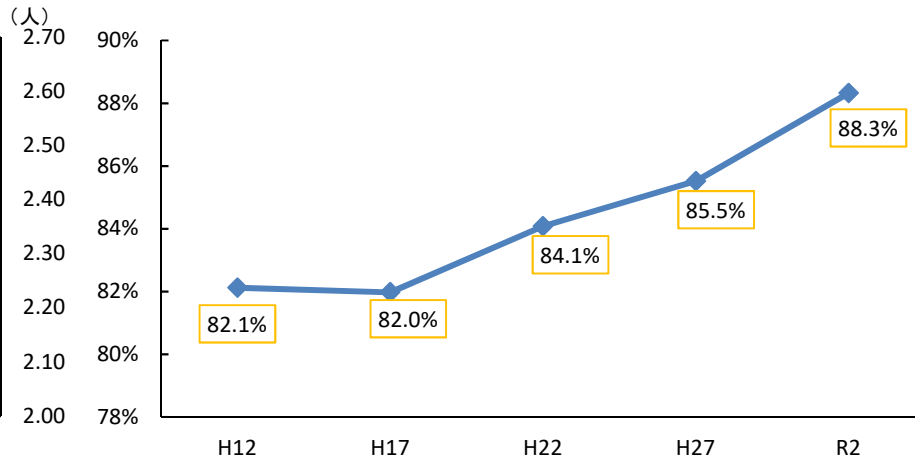
2 世帯数の推移

令和2年国勢調査の結果によると、長期入院患者や社会施設の入居者などの施設等の世帯を除いた本市の一般世帯は、令和2（2020）年で136,634世帯であり、平成27（2015）年の135,018世帯から1,616世帯の増加となっています。一方で、一般世帯の1世帯当たり人員については、2.18人に減少しており、全国的な傾向と同様に世帯規模が縮小しています。また、親族世帯に占める核家族世帯の比率は増加傾向となっています。

◆世帯数と1世帯当たり人員の推移（秋田市）



◆親族世帯数に占める核家族世帯数の比率の推移（秋田市）



◆世帯の家族類型別一般世帯数の推移（秋田市）

世帯の家族類型 (7区分)	平成12年 (2000)年	平成17年 (2005)年	平成22年 (2010)年	平成27年 (2015)年	令和2年 (2020)年
一般世帯数					
総数※	122,728	130,630	131,074	135,018	136,634
親族のみ世帯	85,719	91,159	90,325	86,650	85,698
核家族世帯	70,389	74,724	75,942	74,097	75,691
夫婦のみ	24,327	26,870	28,204	28,726	30,381
夫婦と子ども	36,668	36,460	35,255	33,173	32,259
男親と子ども	1,071	1,290	1,453	1,529	1,672
女親と子ども	8,323	10,104	11,030	10,669	11,379
その他の親族世帯	15,330	16,435	14,383	12,553	10,007
非親族世帯	363	510	980	819	1,020
単独世帯	36,646	38,961	39,727	47,053	49,576

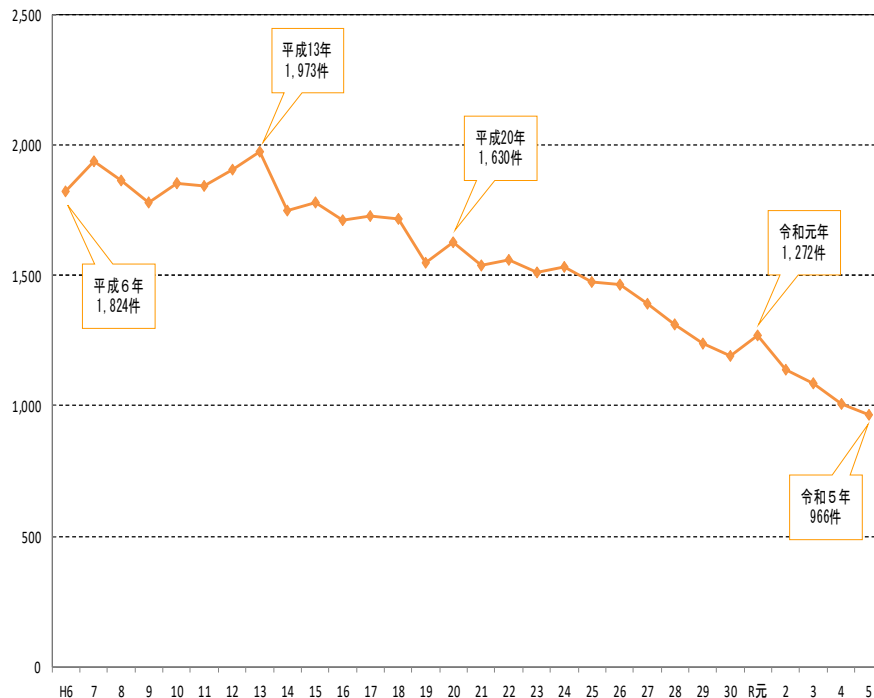
※家族の類型「不詳」を含む

【資料】「令和2年国勢調査」
より作成

3 婚姻の状況

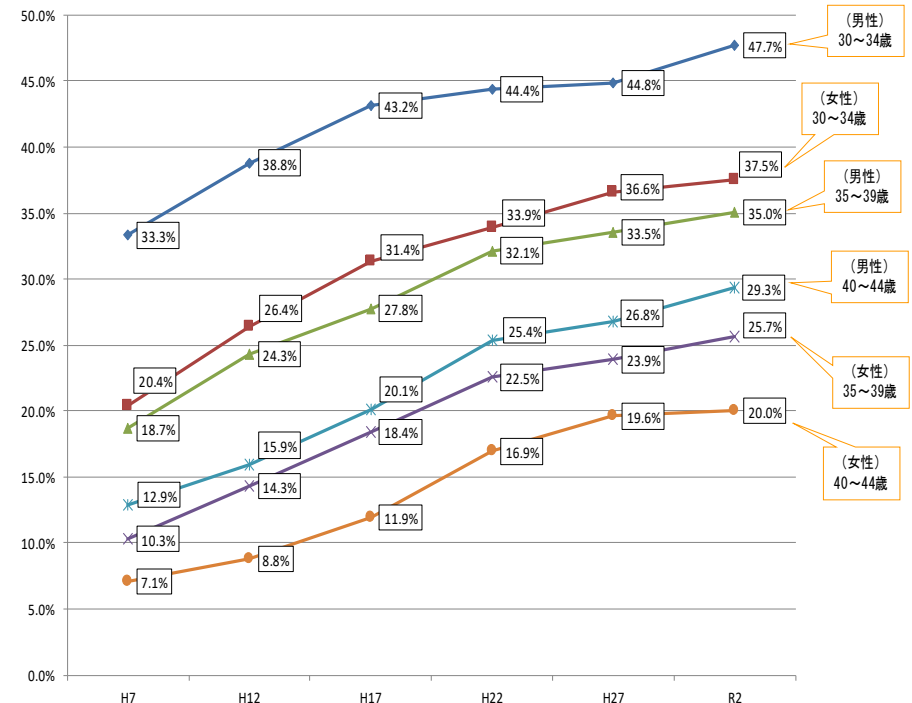
本市の婚姻件数は、減少傾向が続いており、令和5（2023）年は966件で、前年の1,005件から39件減少となっています。また、令和2年国勢調査によると、未婚率は男女ともに上昇傾向が続いており、令和2（2020）年は、30～34歳では、男性が47.7%、女性が37.5%、40～44歳では、男性が29.3%、女性が20.0%となっています。全国的な傾向と同様、本市においても未婚化が進行しています。

◆婚姻件数の推移（秋田市）



【資料】「人口動態統計」より作成

◆年齢階級別の未婚率の推移（秋田市）



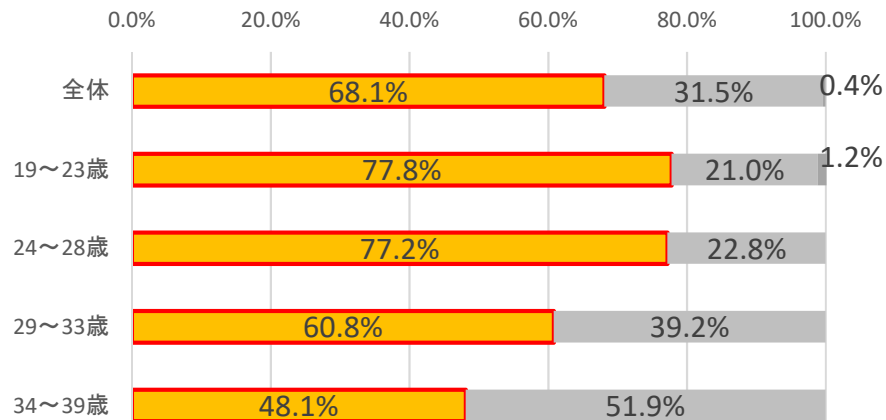
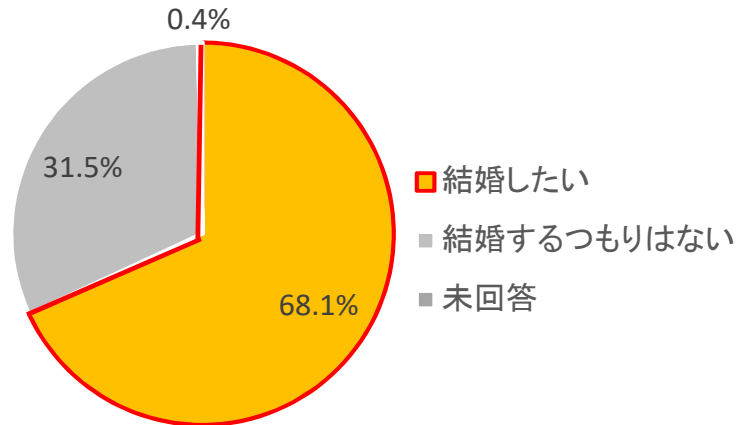
【資料】「令和2年国勢調査」より作成

4 結婚の意思

結婚の意思について、本市の結婚していない若者（19～39歳）の68.1%が「結婚したい」と回答しており、31.5%が「結婚するつもりはない」としています。全国では、結婚していない若者（15～39歳）の62.7%が「結婚はしたい（32.6%）」又は「結婚はできるならしたい（30.1%）」と回答しています。

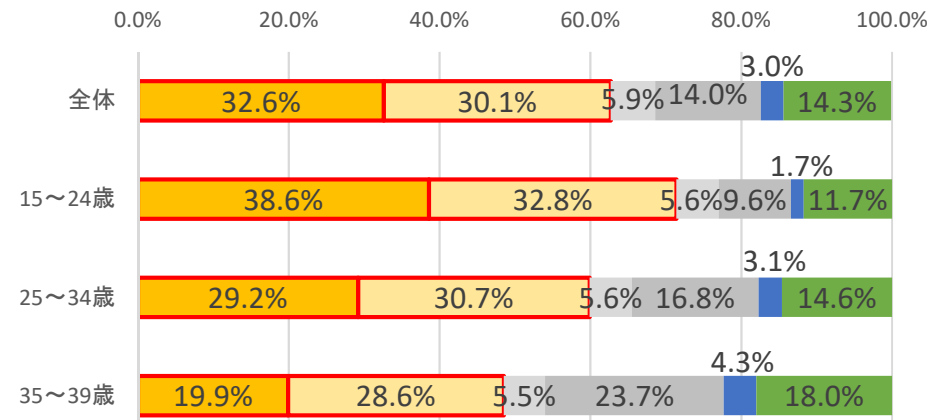
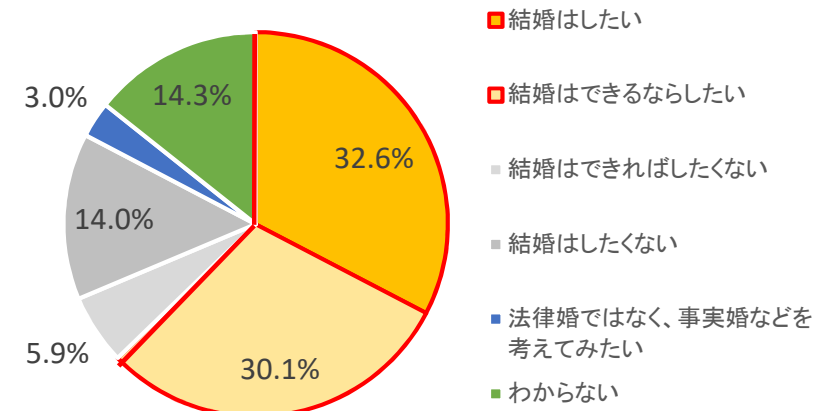
本市の34～39歳（全国では35～39歳）の年齢層では、結婚に対する前向きな意思を示す人が約半数となっています。

◆結婚したいと思うか(秋田市)



【資料】「秋田市こども計画」策定に関する意識・生活状況等調査報告書（令和7年3月）」より作成

◆結婚したいと思うか(全国)

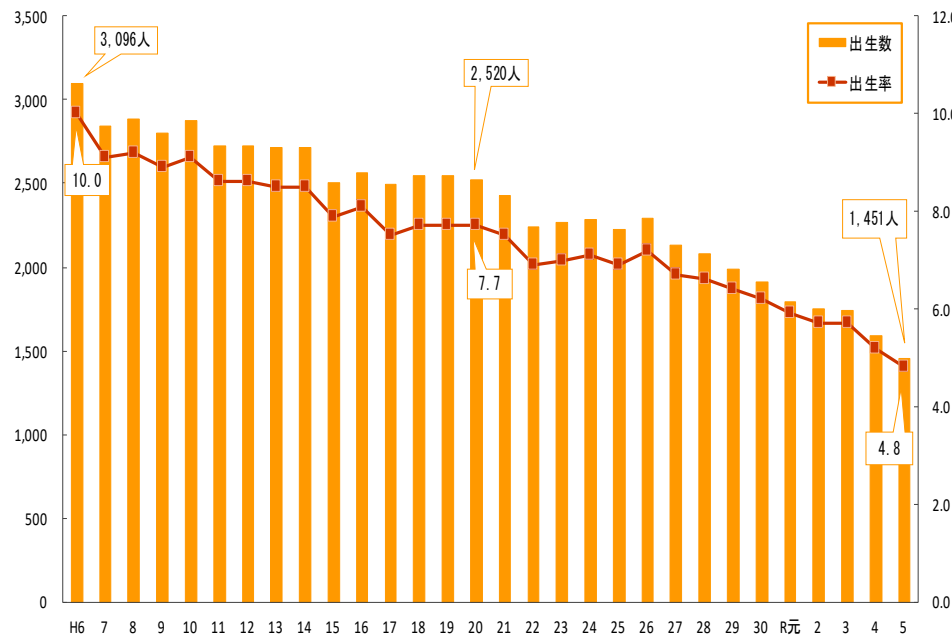


【資料】「若者のライフデザインや出会いに関する意識調査（令和6年こども家庭庁）」より作成

5 出生の状況

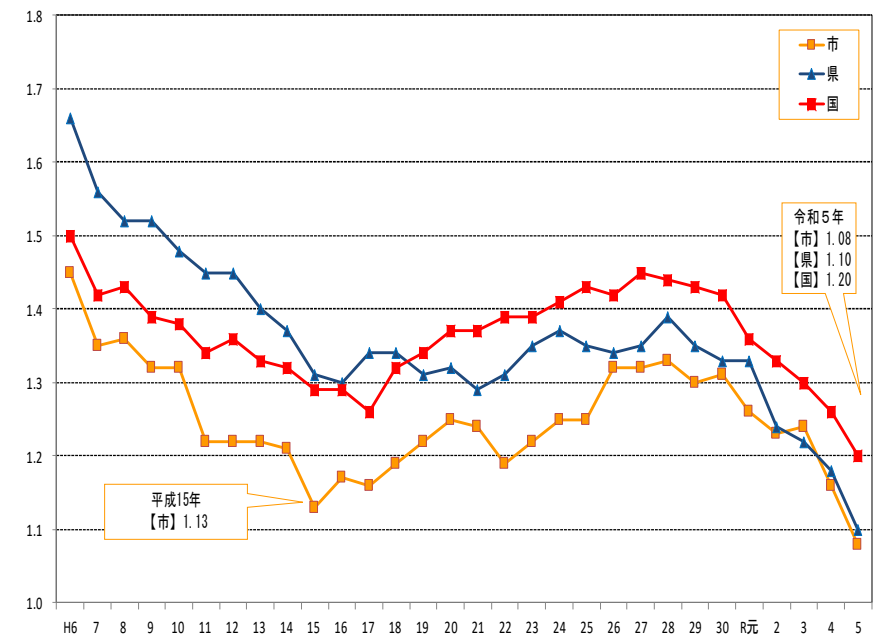
令和5（2023）年の本市の出生数は1,451人で、前年の1,589人から138人減少し、出生率（人口千対）は4.8で、前年の5.2を0.4ポイント下回っています。近年は、出生数・出生率ともに低下傾向が続いています。また、1人の女性が一生に産むこどもの人数とされる「合計特殊出生率」の推移を見ると、本市は平成15（2003）年の1.13以降、上昇傾向となったものの、近年は低下が続き、令和5（2023）年は1.08で、過去最低の数値となっています。

◆出生数と出生率の推移（秋田市）



【資料】「人口動態統計」より作成

◆合計特殊出生率の推移（秋田市）



【資料】「人口動態統計」より作成

6 子育てに関する意識と相談の状況

「子育てに関しての不安感や負担感」については、「非常に感じる」と答えた割合は、前回の平成31（2019）年2月調査（以下「平成31年調査」という。）時と比較して、就学前児童の保護者、小学校児童の保護者ともに増加しています。

「子育てに関して日常悩んでいることや特に不安に思っていること」については、就学前児童の保護者では、「子育てで出費がかさむこと」「病気や発育・発達に関すること」「自分の自由な時間が持てないこと」「食事や栄養に関すること」が上位を占め、小学校児童の保護者では、「子育てで出費がかさむこと」「子どもの教育に関すること」「子どもの友達づきあいに関すること」などが多い状況です。

◆子育てに関しての不安感や負担感などについて
どのように感じていますか

選択肢	就学前児童		小学校児童	
	H31	R6	H31	R6
非常に感じる	14.1%	16.1%	17.3%	21.9%
ときどき感じる	67.9%	62.7%	58.0%	56.0%
あまり感じない	15.4%	17.5%	21.5%	18.4%
全く感じない	2.4%	3.5%	2.7%	3.7%
その他	0.2%	0.2%	0.5%	0.0%

【資料】「子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書（令和元年6月、令和6年5月）」より作成

◆子育てに関する相談件数の推移（子育て相談支援課） 単位：人

区 分 \ 年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
子育て、教育相談等 （うち児童虐待※）	812 (224)	837 (227)	947 (255)	739 (246)	713 (269)
女性相談	1,633	1,162	1,176	1,236	1,654
計	2,445	1,999	2,123	1,975	2,367

※児童虐待として受理した件数（継続含む）

【資料】「福祉の概要（令和7年度版）」より作成

◆子育てに関して悩んでいること、特に不安に思っていることは
どのようなことですか（複数回答）

選択肢	就学前児童 H31	R6	小学校児童 H31	R6
病気や発育・発達に関すること	38.2%	44.0%	24.9%	31.7%
食事や栄養に関すること	40.1%	42.0%	21.8%	29.7%
育児の方法がよくわからないこと	10.5%	10.8%		
子どもとの接し方に自信が持てないこと	24.7%	23.9%	16.4%	22.5%
子どもと接する時間を十分にとれないこと	32.7%	37.9%	28.1%	32.5%
子どもが言うことをきかないこと	26.5%	26.5%		
話し相手や相談相手がないこと	5.6%	6.1%	6.9%	7.0%
自分の自由な時間が持てないこと	38.4%	43.0%	24.5%	31.5%
子どもの教育に関すること	36.3%	33.8%	49.9%	50.5%
子どもの友達づきあいに関すること	15.5%	17.1%	31.6%	36.5%
子どもが幼稚園や保育所等に行きたがらないこと	2.8%	5.3%		
不登校等に関すること			4.5%	8.5%
家族の協力が少ないこと	8.9%	7.8%	8.2%	10.6%
幼稚園や保育所等に、希望した時期に入れにくいこと	5.0%	3.2%		
子どもを叱りすぎている気がする	38.4%	36.9%	36.4%	35.4%
子育てに関して家族と意見が合わないこと	8.8%	7.6%	9.3%	8.5%
自分が子どもを虐待しているのではないかと	2.8%	4.7%	2.9%	3.5%
家族が子どもを虐待しているのではないかと	0.7%	0.6%	0.6%	1.1%
住居が狭いこと	14.3%	13.0%	10.4%	8.2%
子育てで出費がかさむこと	42.4%	49.2%	55.6%	60.7%
子育てにかかりきりになり、家事が滞ること		21.5%		7.1%
その他	6.4%	4.2%	5.0%	5.7%

7 子育て家庭の就労状況

母親の育児等による休業中を含めた就業者の割合は、就学前児童の母親で83.6%と平成31年調査時の74.6%から9.0ポイント増加し、小学校児童の母親では86.7%と平成31年調査時の80.7%から6.0ポイント増加しています。

児童館・児童センター・児童室の利用者数および放課後児童クラブの登録児童数は増加傾向にあり、一部の学区ではクラブの待機児童が発生しています。

◆就労状況

選択肢	父親				母親			
	就学前児童		小学校児童		就学前児童		小学校児童	
	H31	R6	H31	R6	H31	R6	H31	R6
フルタイム就労中	98.2%	96.8%	98.1%	96.4%	40.3%	47.9%	42.1%	52.1%
フルタイム就労中 (産休・育休・介護休業中)	0.0%	0.8%	0.3%	0.5%	11.2%	14.2%	1.4%	0.5%
パート・アルバイト就労中	0.8%	1.6%	0.7%	1.9%	21.0%	20.4%	36.9%	33.1%
パート・アルバイト就労中(産休・育休・介護休業中)	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	2.1%	1.1%	0.3%	1.0%
以前就労していたが、現在就労していない	0.9%	0.8%	0.8%	1.1%	23.9%	16.0%	17.3%	12.6%
就労したことがない	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	1.5%	0.4%	2.0%	0.7%

【資料】「子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書（令和元年6月、令和6年5月）」より作成

◆児童館・児童センター・児童室利用者数の推移 各年度末現在

年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
施 設 数	42施設	42施設	40施設	40施設	—
年間延利用者数	438,421人	380,415人	410,931人	427,012人	16,081人
1日当利用者数(平日)	42.2人	36.6人	42.0人	43.3人	1.3人
利用率(平日)	13.3%	11.8%	13.1%	13.9%	0.8ポイント

◆放課後児童クラブ登録児童数の推移 各年5月1日現在

年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
クラブ数(A)	53クラブ	54クラブ	55クラブ	56クラブ	1クラブ
登録児童数(B)	2,011人	2,289人	2,338人	2,433人	95人
1クラブ当登録児童数(B)／(A)	38人	42人	43人	43人	—

【資料】「福祉の概要（令和7年度版）」より作成

8 育児休業の取得状況

育児休業の取得状況は、就学前児童の母親では、「取得した（取得中）」が65.5%となっており、平成31年調査時の49.0%より取得率が上昇しているほか、就学前児童の父親においても、「取得した（取得中）」が19.9%と、平成31年調査時の4.1%より取得率が上昇しています。

また、「取得していない」理由として、就学前児童の母親では、「職場に育児休業の制度がなかった」が最も多く、就学前児童の父親では、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」という回答が最も多くなっており、それぞれ平成31年調査時から割合が上昇しています。

◆育児休業の取得状況(就学前児童の母親および父親)

選択肢	父親		母親	
	H31	R6	H31	R6
取得した（取得中である）	4.1%	19.9%	49.0%	65.5%
取得していない	94.8%	78.2%	14.4%	8.5%
働いていなかった	1.1%	1.9%	36.6%	26.0%

◆「育児休業を取得していない」理由(複数回答)

選択肢	父親		母親	
	H31	R6	H31	R6
職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった	34.7%	49.0%	22.7%	23.5%
仕事が忙しかった	37.1%	48.6%	16.6%	15.7%
（産休後に）仕事に早く復帰したかった	0.6%	0.9%	12.3%	5.9%
仕事に戻るのが難しそうだった	3.2%	4.9%	12.9%	13.7%
昇給・昇格などが遅れそうだった	5.7%	6.2%	0.6%	0.0%
収入減となり、経済的に苦しくなる	31.5%	36.0%	23.9%	11.8%
保育所（園）などに預けることができた	4.0%	1.7%	14.7%	5.9%
配偶者が育児休業制度を利用した	37.2%	41.6%	0.0%	2.0%
配偶者が無職など、制度を利用する必要がなかった	26.9%	15.1%	4.9%	2.0%
子育てや家事に専念するために退職した	0.7%	0.2%	25.8%	23.5%
職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）	9.3%	9.6%	20.9%	29.4%
有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった	0.8%	0.6%	8.6%	9.8%
育児休業を取得できることを知らなかった	1.9%	4.1%	0.6%	0.0%
産前産後の休暇を取得できることを知らず退職した	0.0%	0.0%	0.6%	3.9%
その他	6.2%	6.6%	19.0%	13.7%

【資料】「子ども・子育て支援に関する二一ズ調査報告書（令和元年6月、令和6年5月）」より作成

9 仕事と子育ての両立

仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることについて、「自分が病気・けがをしたときや、子どもが急に病気になったとき代わりに面倒をみる人がいない」が最も多く、以下、「子どもと接する時間が少ない」「急な残業が入ってしまう」の順に割合が高い状況であり、これは平成31年調査時と同様の傾向を示しています。

◆仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること(複数回答) (単位: %)

選択肢	就学前児童の親		小学校児童の親	
	H31	R6	H31	R6
急な残業が入ってしまう	46.5	44.6	39.9	39.5
自分が病気・けがをしたときや、子どもが急に病気になったとき代わりに面倒をみる人がいない	58.4	61.7	61.3	62.9
家族の理解が得られない	5.3	4.7	5.7	6.1
職場の理解が得られない	24.1	19.9	19.3	14.9
子どものほかに面倒をみななければならない人がいる	3.7	2.7	3.5	4.7
子どもの面倒をみってくれる保育所などが見つからない	6.9	3.2	3.3	1
子どもと接する時間が少ない	53.3	51.1	43.5	42.8
配偶者の家事・育児のサポートが少ない	—	21.3	—	23.4
特にない	7.2	6.7	9.4	7.7
その他	10.9	8	11.6	9.8

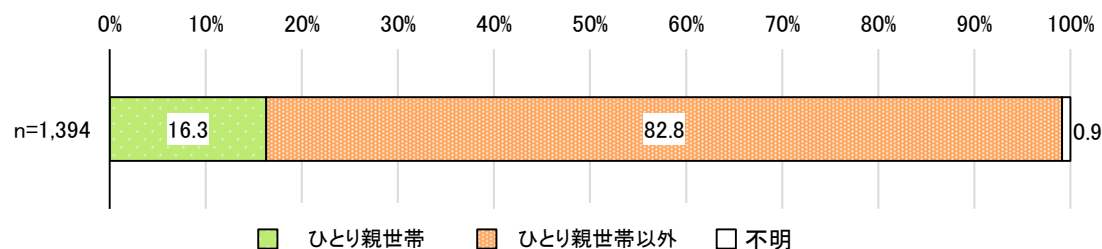
【資料】「子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書（令和元年6月、令和6年5月）」より作成

10 子どものいる世帯の生活状況

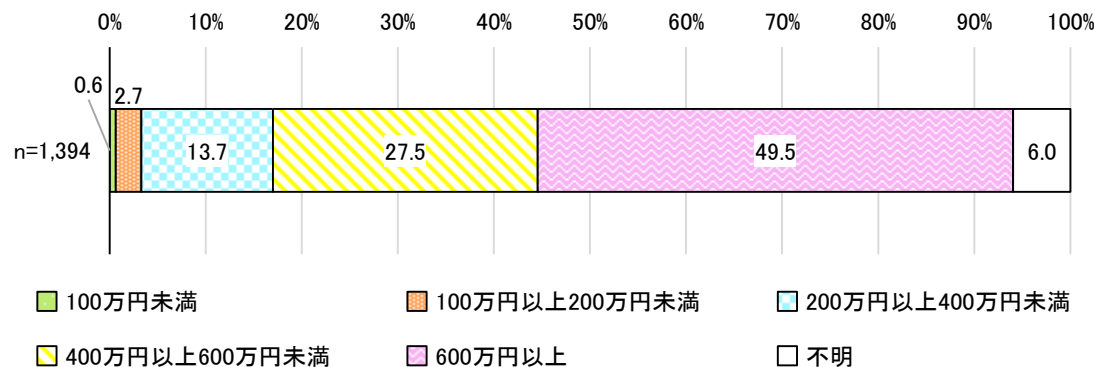
回答した世帯のうち、国の貧困線未満世帯の割合（※）は5.5%となり、前回調査（令和3年度：4.9%）よりも0.6ポイント割合が高くなっています。

※貧困線未満世帯の割合とは、等価可処分所得（年収（手取収入）を世帯人員の平方根で割ったもの）が、国における令和3年の貧困線（127万円）を下回っている世帯の割合を指す。

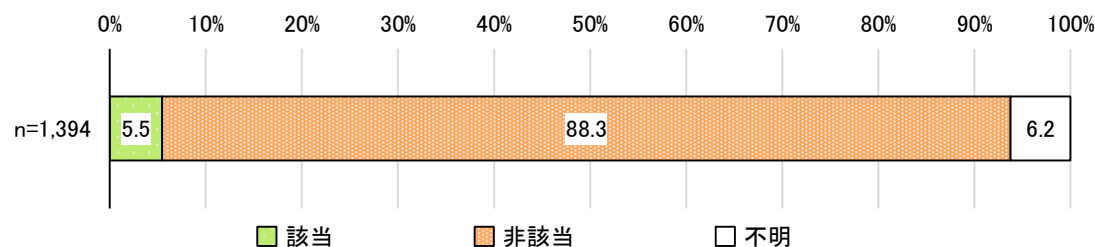
◆回答した世帯のうち、ひとり親世帯の割合



◆回答した世帯の年収（世帯の全ての手取り収入）の分布



◆回答した世帯のうち、国の貧困線未満世帯の割合

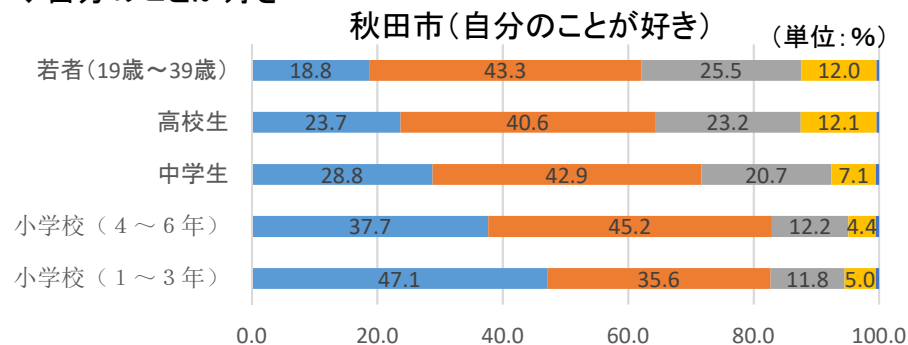


【資料】「秋田市こども計画」策定に関する意識・生活状況等調査報告書（令和7年3月）」より作成

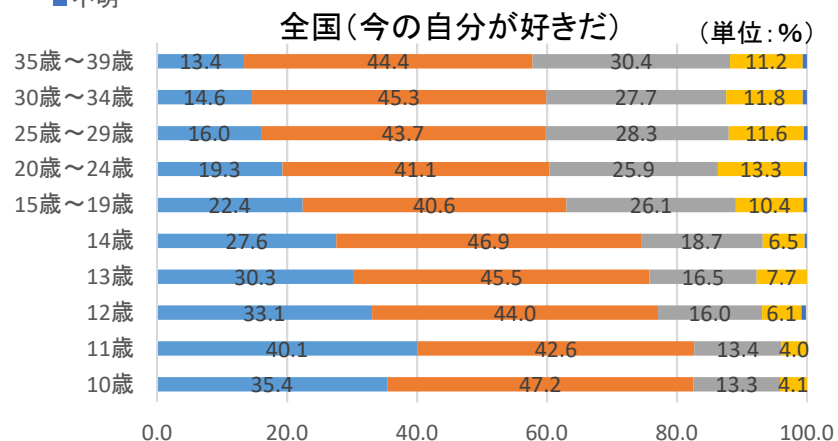
11 こども・若者の自己肯定感

自己肯定感は、年齢が上がるとともに低下する傾向にあります。「自分のことが好き」の回答については、全国と概ね同様の割合となっており、「自分の親から愛されていると思う」についても全国と概ね同様の傾向となっています。

◆自分のことが好き

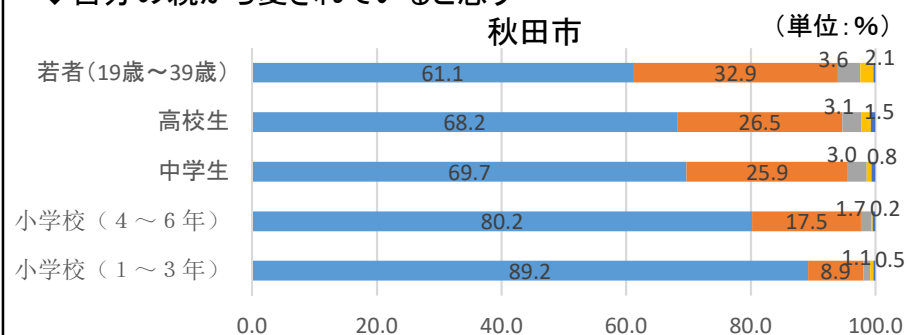


■あてはまる ■どちらかといえばあてはまる
■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない
■不明

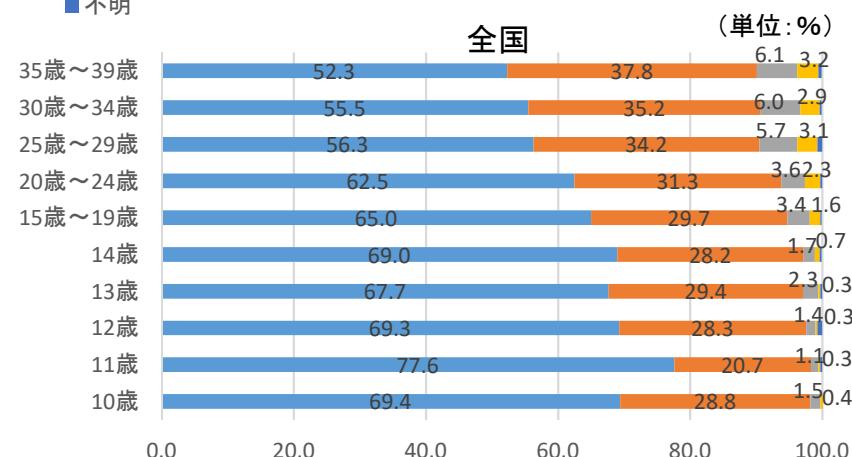


■あてはまる ■どちらかといえばあてはまる
■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない
■無回答

◆自分の親から愛されていると思う



■あてはまる ■どちらかといえばあてはまる
■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない
■不明



■あてはまる ■どちらかといえばあてはまる
■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない
■無回答

12 こどもや若者の悩みごと・不安なこと・困っていること悩み

「今、悩んでいること、不安なこと、困っていること」について、4割以上の小学生は「悩んでいることや困っていることはない」としています。小学生・中学生・高校生の今の悩み等として共通して多かったのは、「勉強のこと」「将来のこと」となっています（悩み等上位2位以上）。

若者で「悩んでいることや困っていることはない」とした方は1割程度であり、半数以上の方が今の悩み等として「お金（収入や家計）のこと」や「将来のこと」を選択しています。また、約3～4人に1人が「就職先の仕事内容や待遇、職場環境のこと（30.6%）」「健康のこと（26.9%）」を選択しています。

◆今、悩んでいること、不安なこと、困っていること（複数回答）

区 分	回答数	親のこと	親（配偶者）以外の家族のこと	家族の世話や介護のこと	お金（収入や家計）のこと	友達のこと	学校生活のこと	勉強（や受験・進路）のこと	将来のこと	健康のこと	性・恋愛のこと	SNS上のこと	その他	悩んでいることや困っていることはない	配偶者（パートナー）のこと	クラブ活動・サークル活動のこと	就職先の仕事内容や待遇、職場環境のこと	職場での人間関係のこと	不明
小学生（1～3年）	n=1,795	5.8	2.6	2.9	9.4	18.2	15.0	20.4	22.4	14.6		2.4	2.3	43.6					0.0
小学生（4～6年）	n=1,890	3.8	2.3	1.1	7.4	16.4	13.1	19.8	19.0	10.9		0.9	2.8	46.7					3.0
中学生	n=2,883	8.4	2.8	0.8	9.9	19.1	19.1	52.3	34.0	8.8	10.0	1.4	2.6	29.3					2.5
高校生	n=2,492	7.5	3.3	1.6	17.6	11.5	14.0	46.6	42.7	7.5	9.4	1.7	1.4	27.8					2.7
若者（19～39歳）	n=980	16.5	10.5	10.0	54.8	3.4	2.1	4.9	53.7	26.9	14.1	0.8	1.8	10.2	8.5	1.2	30.6	18.6	0.5

【資料】「秋田市こども計画」策定に関する意識・生活状況等調査報告書（令和7年3月）」より作成

13 不登校やいじめの状況

秋田市立の小中学校における令和6年度の不登校児童生徒数は、小学校296人、中学校516人、同年度のいじめの認知件数は、小学校94件、中学校68件という状況です。

◆過去5年間の秋田市立小中学校の不登校児童生徒数 (人)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小 学 校	109	157	200	294	296
中 学 校	319	389	428	489	516
計	428	546	628	783	812

【資料】学校教育課調べ

※年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの。

◆秋田市立小中学校のいじめを認知した学校数と認知件数 (校) (件)

年 度	認知した学校数		認知件数		
	小学校	中学校	小学校	中学校	合計
令和2年度	31	17	88	47	135
令和3年度	30	12	90	44	134
令和4年度	29	16	78	70	148
令和5年度	28	16	76	57	133
令和6年度	32	15	94	68	162

【資料】「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より作成